

# いま、世界中のミツバチが、 沈黙の警鐘を 鳴らしています。



ミツバチからのメッセージ。

ある日、巣箱を開けると中にいるはずの何万匹ものミツバチが忽然と姿を消している。女王蜂と幼虫と大量のハチミツは巣に残されたまま、ミツバチの死骸さえ見当たらない。

もまた、生態系、大自然の一部にしかすぎないということを私たちは決して忘れてはならないと思います。  
私たちの、  
ミツバチを呼び戻す研究が  
スタートしました。

忠誠心に富み、組織を大切にするミツバチの習性からは考えられないこの衝撃的な現象がいま、世界中で起きています。蜂群崩壊症候群(ほうぐんほうかいしょうこうぐん)またはCCD(Colony Collapse Disorder)と呼ばれ、2007年春までに欧米では4分の1のミツバチが消えたとも言われています。1960年代に環境問題を告発した生物学者レイチェル・カーソンの著書「沈黙の春」に書き記された警告は、いま現実のものになるうとしています。原因は諸説ありますが、ミツバチの死骸も消えているため、実体を調べることもできず、未だ原因は究明されていません。

私たちの文明は、農業を基盤として成り立ってきたのです。農業(アグリカルチャー)は「耕す文化」ですが人間は近年、農業本来の「自然の声を耳を傾けながら耕す」という謙虚さを忘れ、自分たちの都合により地球を破壊し続けてきました。自然界の多くの命と関わる農業のあり方は、人間の生き方そのものが問われるのです。山田養蜂場の原点である養蜂(アピ・カルチャー)は農業の一つでありながら、自然やミツバチと共に生きる「共生の文化」です。自然環境も、家畜としてのミツバチも、そして我々人間も、ポリネーション(花粉媒介)などの大自然の恵みにより、共に生きていくことができるのです。だからこそ、初めて恩恵を受けることのできる「共生の文化」だと考えています。だからこそ、私たち山田養蜂場は、ミツバチから学んだ自然との共生という理念の下に、様々な活動を行っているのです。子どもたちも世代に、チョウやミツバチの飛びまわる自然環境を残していくために、自然と共生する養蜂文化を守り育てていくことが、私たちの使命だと考えています。

山田養蜂場  
YAMADA BEE FARM